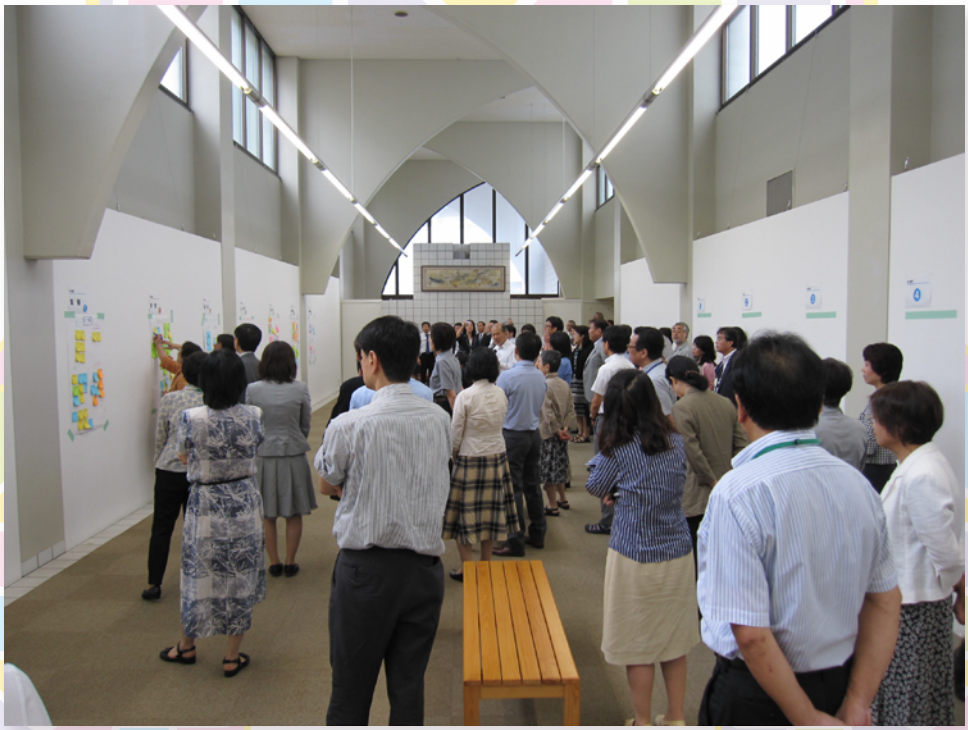
平成28年度 FD・SD活動報告書

職能の更なる向上を目指して――

郡山女子大学・郡山女子大学短期大学部



平成29年5月

学園教育充実研究会

目次

1. 前期授業公開（対象指定型） 4
大学 4
短大 7
2. 全授業公開 9
3. 学園教育充実研究会（大会） 10
FD 部門　9：30～12：20（建学記念講堂 小ホール） 11
SD 部門　9：20～11：30（創学館 2 階 521 講義室） 12
4. 各種研修会・ワークショップ 13
食物栄養学科セミナー：「食品衛生と環境変異原」 14
「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」（答申）以後の各大学における取組と実践 15
障がい学生支援研修会「障害者差別解消法における大学での教職員対応について」 16
平成 28 年度ハラスメント防止研修会：「本学におけるハラスメント防止について」 17
科研費説明会 18
食物栄養学科セミナー：「オーストラリアの食文化」 19
平成 28 年度 SD 部門研修会（夏の大会 午後の部）「事務局の業務と経費の見直し」について 20
平成 28 年度 第 1 回アドバイザー業務研修会：PHP ビデオアーカイブスの活用 21
平成 28 年度 第 2 回アドバイザー業務研修会：実践コーチング ～「わかる」を「できた」に～ 22
システム「めばえ」教職員向け研修会 23
食物栄養学科セミナー：「エゴマの成分と利用について」 24
平成 28 年度ＳＤ部門後期研修会：「乳幼児施策の現状―認定こども園を中心に」 25
5. 事務局職員 外部研修参加記録 26
事務局長 26
総務部 26
経理部 27
管財部 27
入学事務・広報部 28
教務部 28
学生生活部 30
就職部 31
保健室 32
図書館 32
高校事務室 33
幼稚園事務室 34
学園教育充実研究会（SD 部門） 34
家庭寮 34

ＦＤ・ＳＤの方向性について

昨今、三つの方針として入学から卒業にいたる大学（学科）の教育内容の明示が求められています。それには幾つかの理由がありますが、教育内容の説明責任と学位の種類が多様化し過ぎている現状への対処と見る方が適切であろうと思います。

FACULTY とは教員集団（学部・学科）であり、教員個人の呼称ではなく、国際的には学部・学科の教員全体を指すことの意図が、我が国では曖昧の儘で通用しています。即ち、学部・学科の教育目的のもとで教員集団の資質向上を求めている事が FD です。往々にして、教員個々の問題とされがちですが、それは狭義でしかありません。

片や、SD ですが、STAFF の意味が事務職員とか職員と解釈されていますが、もう少し広義の理解が求められています。

大学の業務は多岐に亘りますが、学部・学科の教育内容と教育目的の理解は存分に個々の職員に行き届いているでしょうか。そして、個々人の分野別専門能力は如何でしょうか。少なくとも、学部・学科での養成目的に対する具体的な理解と応用が求められています。さらに、教員個々の研究内容や授業の特色なども承知していなければ学内のサポート体制が生み出せないのではと思います。まさに、STAFF とは教育を支える大きな役割を担っている職員ですから、全体と部分を認識し適切に教員をフォローしリードする能力の涵養が求められています。

限られた字数で FD と SD を論ずるには少し舌足らずですが、折があれば具体的に説明したいと思っています。

学園教育充実研究会委員皆様の御苦労に感謝いたしつつ。

平成２９年４月１９日　学園長　関 口　　修

本年度の FD・SD 活動を振り返って

学園教育充実研究会
主任　磯部　哲夫

本年度は委員の入れ替えもあり新体制でのスタートなったが、前年度に作成したマニュアルを維持し、マニュアルに則った業務の遂行、という側面が大きかった。年度当初の主要な課題としては、（1）授業の改善、（2）夏の大会の改善、（3）研修会についての改善、の 3 点を挙げた。

「授業の改善」に関しては第一に、授業評価アンケートの活用を促進することが課題であった。本委員会として 5 月の教授会において、前年度の PDCA 表から各学科の授業評価利用状況の一覧表を作成し配布した。各学科の授業評価の結果利用のあり方について、ばらつきが大きい現状を把握してもらった。第二に、授業公開の改善である。前期の授業公開は、参観者にコメントカードの提出を求め授業の改善を図った。また昨年同様、検討会のみの参加を禁止した結果、授業についての意見交換は非常に活発に行われた。次年度は、授業評価活用状況の一覧表配布を継続しつつ、さらに本研究会でアンケートの活用法について検討していく。授業公開・検討会については、形式は固まってきたが参加者が伸び悩んでいる現状を鑑み、参加者を増やしていく方策を検討する。

「夏の大会の改善」に関して昨年度は、大学教育改革検討委員会ブランド検討部会との共同開催となったが、本年度は共同開催ではなく学園教育充実研究会の単独開催ということに決定した。テーマを「職能の更なる向上を目指して」と定め 8 月 30 日に実施されたが、前日からの台風の影響により午前のみの開催となった。FD 部門においては、午前でディスカッションとポスター発表まで行い終了したが、SD 部門においては午前の外部講師研修会で終了し、改めて 12 月 27 日に SD 研修会「ワークショップ」として、ディスカッションとポスター発表を行った。実施後のアンケートにおいて、全体としての満足度は 89.5%という結果であり、本委員会としての役割は果たせたと言えるのではないか。

「研修会についての改善」に関しては、本年度は 12 回の研修会を開催した。またオンラインビデオの活用については昨年度同様、年間 2 回以上の利用実績を目指した。本年度は「キャリアデザインⅠ」の授業において活用し、1 月に学生生活部と共催で「第 1 回アドバイザー業務研修会」でビデオを活用し、2 回の利用実績は達成した。また 1 月の研修会において、ビデオ利用についての意識調査を実施し、利用希望が約 85%という結果となり、次年度のビデオ利用継続に対してのエビデンスを得ることができた。

本年度は大学・短大ともに第三者評価を受審した年であったが、実地調査において本研究会の FD・SD 活動が、1964 年から続く教職協働の活動歴と、その実施内容について高く評価された。次年度も本研究会の歴史の基盤の上に、更なる教職員の職能の向上を目指し、職能開発を進めていきたい。

1. 前期授業公開（対象指定型）

本学では教員の授業実践力の向上を目的に、学園教育充実研究会発足以来、対象学科を選定し授業公開を行っている。今年度は、大学は人間生活学科、短大は家政科食物栄養専攻が担当対象学科となった。

大学

実施概要

■ 授業担当者　堀　琴美 先生（大学人間生活学科　講師）
■ 科目名　「人間発達学」
■ 開講期　平成 28 年度　前期
■ 公開日時　平成 28 年 6 月 21 日（火）Ⅰ時限目（8：50～10：20）
■ 使用教室　83 年館 3 階　831 教室
■ 対象学生　人間生活学科 2 年生（10 名）・人間生活学科 4 年生（編入生／1 名）
■ 参加者数　授業参観 20 名（大学 9 名・短大 10 名・事務局 1 名）・授業検討会 13 名（大学 4 名・短大 9 名）

公開授業の概要

１．公開された授業（本時）のねらい

第 10 回　愛着理論　―愛着と基本的信頼―

発達の諸段階をひと通り概観したところで、この回で再び赤ちゃんの段階に戻り、改めて「愛着」とは何かを学修する。

愛着は、お母さんだけでなく赤ちゃんのほうにも存在していることや、人は愛着によってその後の人生の基盤となる「基本的信頼」を獲得することを学ぶ。

ボゥルビィが愛着を発見した背景や、エインスワースの「安全基地」とは何かを学び、愛着もまた人と人との「反復」する関係の中で育てていくものであることを理解する。その中で、赤ちゃんはなぜ泣くのか、愛情ある働きかけがなぜ赤ちゃんの発達に必要なのかを考える。

２．授業内容

(1)　導入（約 10 分）

小ディスカッション：赤ちゃんはなぜ泣くのか、ヒトの赤ちゃんはなぜ超未熟児で生まれるのか。

(2)　展開（約 60 分）

①ボゥルビィの愛着理論：愛着とは何か、愛着発見の背景、戦後孤児の問題から一般論へ
②ハーロゥのアカゲザルの実験：赤ちゃん側にも存在する愛情欲求、母子分離ストレスと移行対象
③エインスワースの「安全基地」：探索行動と安全な避難場所
④子どもの世話と愛情：おかあさん（養育者）の努力、ストレスシステムと神経細胞の発達
⑤愛情ホルモンとつながる力：ネズミの話、愛情ホルモンは何をするのか、特定の人との「反復」する関係
⑥ＤＶＤ視聴：「アタッチメント関係」

(3) まとめ（約 10 分）

今日の授業やＤＶＤを見た感想、赤ちゃんにはなぜ養育者の愛情ある働きかけが必要なのかを、学生自身が自分の言葉でまとめる。

３．工夫した点（参観のポイント）

(1) 学生の発言を引き出す：アクティブラーニングの試みとして

導入部で「なぜ赤ちゃんは泣くのか」の問いを投げかけ、学生ひとりひとりに答えさせる。授業の中間部で「子どもの頃のお気に入りのぬいぐるみ」（移行対象）を思い出して紹介してもらう。最後のＤＶＤ視聴の後に感想を述べさせる等、学生の発言を引き出す時間を設けた。学生は、他の学生の意見を聞くことで理解を深め、発想が広がり、新たな疑問が生まれることも多い。また、教員にとっては、学生の理解度を把握し、認識の誤りを訂正したり、求められた疑問に対する回答や補足説明を加える機会になる。

(2) 授業内容：古典的理論と最近の脳科学をつなぐ展開

1950 年代に提唱されたボウルビィの「愛着理論」は現在も多くの分野で注目を集め、発達心理学の基礎とされる重要な概念である。他方、最近の脳神経科学によって発見された「愛情ホルモン」や「ミラーニューロン」等は（後者はこの回では取り上げなかったが）、愛着理論の神経学的メカニズムを解明し、科学的に裏付け、次々に新しい発見を生み出している。そうした流れを学ぶ中で、学問的な動機や研究の努力、発見のプロセスなど触れてもらいたいと思った。

(3) 視聴覚教材の活用

目覚ましい発達を遂げる子どもの成長過程は、実際に見なければわからないことが多いので、視聴覚教材の利用が効果的である。本講義では、前半部で言葉の説明や理論を展開し、後半３分の１を使って「おさらい」として DVD を視聴した。

(4) 板書としてのパワーポイント

パワーポイントの画面は、①図や写真、イメージ等を見せるため、②トピックや引用文を紹介するため、③学生がノートをとるため等、目的によって表示する文字数や表示方法を変えている。ノートを取るためのページでは、ポイントを絞り、文字数を多くしないよう心掛け、学生がノートを取る時間を確保した。これは、画面を切り替えるとノートが取れなくなるというパワーポイントの欠点に対する苦肉の策である。また、今回の授業では「アンダーライン部分のみの記載」を指示してノートを取る時間を少々節約した。

４．授業の自評

(1) 小ディスカッションについて

学生は教員との「双方向」のやり取りに慣れてきており、全員が意見を言えるようになった。自発的に質問をする学生も少しずつ増えてきた。しかし、最終目標である「討論」（学生どうしの自発的なやりとりが深まる）段階にはまだまだ届いていない。その意味では、「小討論（ディスカッション）の活用」という表題はいささか大風呂敷だったと後になって気がついた。討論ができるようになるまでには、さらに何段階もの訓練が必要と再認識した。

(2) 機器操作の不手際

パワーポイントと DVD 視聴の切り替え時に機器に不慣れなために時間がかかった。充実研担当の先生方の手助けをいただきようやく映写できた。前日に点検したにもかかわらず、である。若いころ苦手意

識はなかったが、だんだん機械が不得手になるのかもしれない。円滑な操作と授業の運営を心がけたい。

(3) 授業内容と時間配分

「奥行きのある授業」を目指したいと思った。伝えたい内容を「てんこ盛り」にするのではなく、選り抜いた内容であることを「なんとなく」感じてもらうことができたら本望である。時間内に教えたい材料は沢山あったが、詰め込み過ぎにならないように、内容の〝焦点化〟と〝軽量化〟を心がけた。そして、論理的な展開（わかりやすい説明）に重点を置き、話題がなるべく横道に逸れないように材料を構成した。その結果、エインスワースの有名な「ストレンジ・シチュエーション実験」を割愛したり、ハーローの「アカゲザル実験」を４行でまとめるというような「コンパクト化」を図ったりした。時間に余裕ができたおかげで、ゆったりと授業ができ、学生との会話や説明の追加など「自由度」や「即興」を楽しむことができた。

参観の先生方からも「楽しそうでした」といっていただけて光栄に思った。

５．公開授業に対する感想

公開授業をさせていただくことになり、準備段階で FD 担当の先生と打ち合わせをした際に、アクティブ・ラーニングという方法があることを教えていただいた。私はそのとき、もしかすると自分のやっていたことがアクティブ・ラーニングなのかなと思い始めた。そして、今回の公開授業でいろいろな先生方に見ていただき、「これはアクティブ・ラーニングだね」と言っていただいた。

私は、この「双方向」の対話・討論型の授業形式を、必要に迫られて編み出した。私の授業は「虐待」や「外傷」という重いテーマが多いので、その「重荷」を軽減するために、学生に意見や感想を語らせる必要があったのだ。

授業検討会では、これからは大学においてもアクティブ・ラーニングの実践が求められるとの指摘があった。教員にとっては、様々なスキルや理念の獲得が喫緊の課題になってくるのだろう。そうした時代の流れや教育の方向性を学ぶ機会としても、大変貴重な機会をいただいたと思う。

公開授業では、お忙しい中、私の拙い授業を参観くださった先生方に感謝いたします。また、引き続き授業検討会にも参加くださり、貴重なご意見やご経験を共有してくださった先生方には、重ねて心からのお礼を申し上げます。ありがとうございました。

短大

実施概要

■ 授業担当者　澤渡優喜 先生（短大家政科食物栄養学科　講師）
■ 科目名　　「食品学Ⅱ」
■ 開講期　　平成 28 年度　Ⅰ期
■ 公開日時　　平成 28 年 6 月 20 日（月）Ⅲ時限目（12：50～14：20）
■ 使用教室　　62 年館 3 階　634 教室
■ 対象学生　　短大家政科食物栄養専攻 2 年生（45 名）
■ 参加者数　　授業参観 15 名（大学 4 名・短大 11 名）・授業検討会 8 名（大学 2 名・短大 6 名）

公開授業の概要

１．公開された授業（本時）のねらい

第 11 回　乳類とその加工品

食品学Ⅱでは、普段食べている食品の特徴、加工方法、更には健康増進機能について授業をします（第1～13 回）。また、後半（第 14～15）では、ここまで学んだ食品を例にしながら、食品の保存と規格・表示について授業をします。

今回は【第 11 回】の「乳類とその加工品」を公開授業に選びました。本授業では、主要な乳製品の種類と製造方法を概説しますが、乳製品の中でも「はっ酵乳」と「乳酸菌飲料」に焦点をあて、製造方法と健康増進機能について解説をします。特に、消費者視点での健康増進機能について正しく理解することを本授業のねらいとしました。

２．授業内容　　①授業の始まりの挨拶　　②出席確認　　③資料配布

(1) 導入（約 10 分）

今回の授業の概略をパワーポイントで説明。今回の授業は、いわゆるヨーグルトの内容で、商品パッケージから知ることのできる健康増進機能と、乳酸菌とはどのような形をした微生物なのかを、電子顕微鏡写真で説明しました。

(2)　展開（約 80 分）

○「ヨーグルト」と「はっ酵乳」の違い：「ヨーグルト」とは「はっ酵乳」の仲間であり、「はっ酵乳」の中で特定の乳酸菌（ブルガリカス菌とサーモフィラス菌）で発酵させた乳の名称であることを説明しました。

○乳等省令：「ブルガリアヨーグルト」、「ヤクルト」、「ラブレ」のような乳酸菌を利用した乳の発酵物は乳等省令で、成分と菌数の規格があることを説明しました。

○製造方法：牛乳にスターターである乳酸菌を添加して、発酵させると牛乳の pH 低下に伴って牛乳が固まり、「はっ酵乳」になることを説明しました。

○乳酸菌の種類：乳酸菌には、「はっ酵乳」の主においしさを作る乳酸菌と、主に健康増進機能に関与する乳酸菌がいることを説明しました。更に、健康増進に関与する乳酸菌のことを「プロバイオティクス」と呼ぶことを説明しました。また、メディアで良く聞く、「動物性（酪農）乳酸菌」と「植物性乳酸菌」の違いについても説明しました。

○プロバイオティクス：「プロバイオティクス」の定義に加え、関連用語である「プレバイオティクス」と「シンバイティクス」について説明しました。

○プロバイオティクスの利用：代表的なプロバイオティクス効果である整腸、血圧低下効果、脂質代謝改善効果、免疫調節について説明しました。(殆どの学生が、授業の板書をノートに書いていましたので、授業内容の定着の効果があると期待しています。)
○授業終了の挨拶

３．工夫した点（参観のポイント）

導入では、授業内容の概要を説明し、学生の注目を授業に引き付けるようにしています。授業ではマイクを使わず、大きな声で説明をするようにしています。板書については、黒板を３分割して、なるべく大きい字で書くようにしています。説明をしますが、説明内容を自力でノートに書ける学生は少ないと想定していますので、最低限、ノートを見直しただけで、授業内容を理解できる分の情報を板書するようにしています。

４．授業の自評

導入部分で、ヨーグルトのパッケージと乳酸菌の電子顕微鏡写真を見せることによって、今日は何をテーマにした授業なのかを理解してもらうことが出来たと思います。

授業では、可能な限り市販品の名前を出して、授業内容が普段の生活に関係しているということを学生に実感させるようにしました。また、メディアで流れているような事柄なども授業に取り入れて、学生の関心を高めるようにしました。その結果、多くの学生は興味を持って授業を受講できたと感じています。

板書については、目標の分量を適度な速度で書くことが出来ましたので、多くの学生は、取りこぼしなくノートに授業内容を記録できたと感じています。

一方、授業で教えるべきことが多く、また、45 人という多人数クラスの授業であるため、板書の授業では時間に余裕がなく、学生に質問をしたりすることができないことが課題です。

５．公開授業に対する感想

公開授業という特殊な環境でしたが、いつも通り授業を進めることが出来たと思います。

ご参加頂きました先生方からのご意見の多くは、「学生との対話を取り入れては？」というものでした。一方、「板書」と「説明」については、お褒めの言葉が多く大変励みになりました。私自身も、学生と対話をしながら授業を進めるべきと感じていますので、次年度以降はさらに授業内容を精査し、学生との対話の時間を作ることを目標に、授業を計画予定です。

2. 全授業公開

前期の授業公開が、公開者を限定して授業検討会で授業に対する認識を深めていくのに対し、後期の授業公開では、全員が授業を公開する。昨年同様、職員の授業への参観も受け入れた。

Ⅰ．背景と目的

(1)　授業力の向上が必要な教員の研修機会を提供する

(2)　全教員の授業力のさらなる向上

(3)「学び合い、教え合う学園へ」の相互扶助の精神による FD・SD 活動の実現

Ⅱ.公開方法

■ 公開時期　後期：11 月中旬～下旬の 2 週間（11/14～25）。一般的には第 10 回、11 回の授業。

■ 公開について

①「公開免除の規定」により免除されない限り、全ての自身の授業を公開する。

②　1)参観者から事前の連絡が欲しい場合、2)注意事項がある場合、3)（特別な理由により）非公開の場合、は、その旨をグループウェア上にあるスケジュールの「メモ欄」に記入する。

③　上記②の記入は当該授業日の 1 週間前迄に行う。

④　参観者があった場合は、公開期間終了後に参観者名簿を充実研に提出する。

■ 参観について

①　教員・職員ともに、期間中の参観を任意とする。

②　参観 1 回につき、研修会参加 1 回分としてカウントする。

※参観の有無（回数）は提出された参観者名簿より、学園教育充実研究会が集計する。

③　参観する際には、参観者名簿に記帳し、授業終了後には、感想用紙を授業担当者に提出する。

④　参観は授業開始から終了までを原則とするが、2 時限連続の授業等においては 1 時限分のみでも可とする。

Ⅲ.参観回数

①　教員　大学 22 回（17 人）・短大 14 回（10 人）

②　職員　なし

3. 学園教育充実研究会（大会）

学園教育充実研究会（大会）は、昭和 44 年（1969 年）より、学園の教育の充実を図ることを目的として実施されている教員・職員の研修大会である。

平成 28 年度は、「職能の更なる向上を目指して」をテーマに掲げ、教職員が協力して大学の教育機能・環境の向上に組織的に取り組むため、個々の職能の更なる向上を目指した。そのため本年度は、FD 部門と SD 部門に分かれて研修会を開き、それを基にしたディスカッションを行った。FD 部門は授業開発に焦点を当て、「アクティブラーニング（能動的学修）」についての研修会とディスカッション、また SD 部門は事務業務内容の検討について研修を実施した。

■ **実施日程**　平成 28 年 8 月 30 日（火）8：50～12：30　（当初の予定時間：　8：50～16：10）

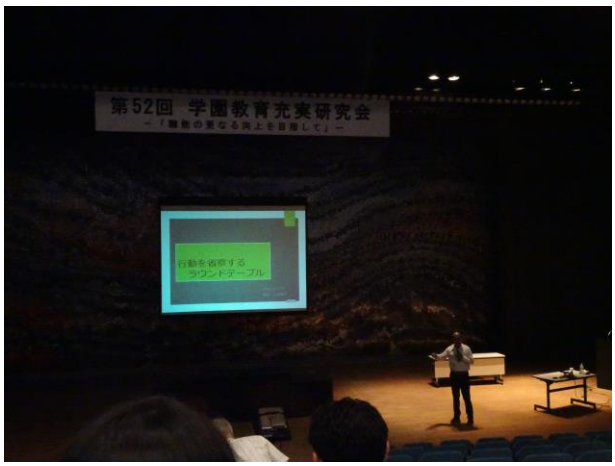
大型台風の接近に伴い学園側で検討した結果、当日の午後の予定はすべて中止された。FD 部門は、時間を短縮しつつもポスター制作および発表までを実施したため、一定の目的を達成したとの結論に至り終了とした。SD 部門は、午後の研修会を別日に設定し、12 月 27 日にワークショップを実施した。

■ **会　場**　　本学園（建学記念講堂、創学館 2 階 521 講義室）

■ **参加者**　　大学教員 38 人、短大教員 49 人、事務局職員（高校事務局を含む）47 人、計 134 人。

【平成 28 年度 学園教育充実研究会（夏の大会）プログラム】　※台風のため午前のみの企画となった

企　　画		時　間	内　　容
開会式		9：00～9：20	学園長挨拶・学園教育充実研究会主任挨拶
部門別研修会	FD 部門	9：30～12：20	①外部講師研修会 ②ワークショップ ③グループディスカッション ④ポスター作成・発表
	SD 部門	9：20～11：30	①事例発表 ②外部講師研修会
閉会式		12：30～12：50	講評・学園教育充実研究会主任挨拶



FD 部門　9：30～12：20（建学記念講堂 小ホール）

○実施内容

1. 外部講師による研修会　9：30～10：30

「なぜ、今、アクティブラーニングが必要なのか」

講師：大熊雅士 氏

（元東京学芸大学教職大学院特命教授、現 NPO 法人元気プログラム作成委員会副委員長）

2. ワークショップ

「アクティブラーニングを授業に取り入れよう！」

講師：大熊雅士 氏

1）ブレインストーミングのコツ

2）問題解決のためのラウンドテーブル

SD 部門　9：20～11：30（創学館 2 階 521 講義室）

○実施内容

1. 事例発表　9：30～9：50
   高校業務の取り組みについての報告
   担当：高校事務室　高校事務室係長 村田菜織 氏
2. 外部講師による研修会　10：00～11：30
   「私立大学等と取り巻く経営環境の変化とその対応策について」
   講師：野田文克 氏　　（日本私立学校振興・共済事業団　私学情報室長）

参加者の感想（抜粋）

［FD 部門］

・教育機関と民間企業で活躍されている講師で、型にはまらず、発想がとても豊かな人物で刺激を受けた。一方向的な昔ながらの講義から脱却する方法論が見えてきたような気がした。
・中教審答申など政策動向も踏まえてのお話で参考になった。
・思考を整理する上で付箋やカードが役立つことを再確認したので、講義で取り入れた。
・もう少し実践事例があるとうれしかった。
・大人数講義のグループでは、ほとんどの先生がこの方法は採り入れにくいと話した。
・台風の関係でワークショップが短縮されてしまい残念でした。

［SD 部門］

・マニュアルの作成については喫緊の課題と考えていたため、非常に参考になった。自身が担当している業務について、少しずつでも取り組んでいきたい。
・教職員 1 人 1 人が危機感を持ち取り組めるよう、もっとお話しを伺いたいと思った。
・膨大な資料を用いてお話しいただいたが、もう少し的を絞って話していただけるとよかった。
・経営環境に関わる題目のため、職員のみではなく教員にも共有すべき内容だったと感じた。
・まず管理職が率先して参加し、引っ張る姿を見せることが全体の意欲向上に繋がると感じる。

4. 各種研修会・ワークショップ

本学では、平成 24 年度から「各種研修会」を導入し、徐々に実施回数を増やすなどの試みを重ねてきた。平成 26 年度には、研修開催主体の他部署・委員会への開放や、年間参加回数ガイドラインの導入を行ったことから、研修会の飛躍的な広がりが見られた。本年度は「各種研修会」が本学の制度としてさらに確立した年となった。

	日程	タイトル	主催	参加人数
1	6/8	平成 28 年度第 1 回 大学食物栄養学科セミナー 「食品衛生と環境変異原」	大学食物栄養学科	22
2	6/22	平成 28 年度 SD 部門研修会 「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」（答申）以後の各大学の取組・実践	学園教育充実研究会 SD 部門	46
3	9/2	障がい学生支援研修会「大学における障害学生支援のあり方　－障害者差別解消法施行を受けて－ ①午前の部　　②午後の部	障がい学生支援委員会・ 学生生活部共催	69 (①47 ②22)
4	9/21	平成 28 年度ハラスメント防止研修会 「本学におけるハラスメント防止について －特にパワハラ防止を中心として－」	ハラスメント防止委員会・ 学生生活部共催	57
5	9/28	科研費説明会	教務部・不正防止委員会共催	34
6	11/16	平成 28 年度第 2 回 食物栄養学科セミナー 「オーストラリアの食文化 －先住民アボリジニの食文化とその変遷を中心として－」	大学食物栄養学科	18
7	12/27	平成 28 年度 SD 部門研修会（夏の大会 午後の部） 「ワークショップ」	学園教育充実研究会 SD 部門	40
8	1/31	第 1 回アドバイザー業務研修会 「PHP ビデオアーカイブスプラスの活用」	学生教育充実研究会・ 学生生活部共催	50
9	2/8	第 2 回アドバイザー業務研修会 「実践・コーチング　～『わかる』を『できた』に～」	教養キャリア教育委員会・ 学生生活部共催	20
10	2/15 2/16	「システムめばえ教職員向け研修会」① 「システムめばえ教職員向け研修会」②	新大学システムプロジェクトチーム	109 (①67 ②42)
11	2/18	平成 28 年度第 3 回 食物栄養学科セミナー 「エゴマの成分と利用について」	大学食物栄養学科	28
12	2/28	平成 28 年度 SD 部門後期研修会 「乳幼児施策の現状　-認定こども園を中心に」	学園教育充実研究会 SD 部門	53
計				546

食物栄養学科セミナー：「食品衛生と環境変異原」

ごみの焼却・加熱工程で発生するダイオキシンは、塩素を含む物質の不完全燃焼や意図しない副生成物として発生する物質で、分解しにくく健康面への影響も大きい化学物質であることが知られている。世界のごみ焼却場の 7 割が日本に存在していることから、ダイオキシン対策は国にとって最重要課題であり、国策としてごみを燃やさず資源化するための研究が盛んに行われた時期があった。

このような時期に演者は、廃棄物行政の中核であった独立行政法人国立環境研究所廃棄物研究センターにおいて廃棄物の資源化や廃棄物を利用したリサイクル製品の安全性評価着手した。

本セミナーでは、演者のバックグラウンドである水質汚濁の研究、廃棄物研究センターで着手した廃棄物の資源化に関する研究、変異原性を指標とした廃棄物を利用したリサイクル製品の安全性評価研究と全国大気粒子中の変異原性および遺伝毒性の研究について紹介した。また、現在発がんの 30%が食事に起因していると言われていることから、今後は変異原性を指標として、食事と病気の研究をすすめていきたい。

■ 主催　大学 食物栄養学科
■ 日程　平成 28 年 6 月 8 日(水)　V時限目（16：10～17：40）
■ 会場　家政学館 臨床栄養実習室
■ 講師　影山志保 先生（大学食物栄養学科 准教授）
■ 参加者数　22 名（大学 16 名・短大 4 名・その他 2 名）

■ 実施内容（抜粋）
(1)　水質汚濁と微生物生態について
(2)　変異原性について
(3)　最終処分場再生作業時における環境影響に関する調査研究
(4)　遺伝毒性について
(5)　全国から採取した大気粉塵と粒子の変異原性と遺伝毒性
(6)　食品衛生と環境変異原

「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」（答申）以後の各大学における取組と実践

中央教育審議会が、平成 24 年 8 月 28 日に「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）」を取りまとめ・発表した。それ以降、全国の各大学で教学改革が進められているところである。今回は各大学における具体的な取組と実践について、国立大学法人東京工業大学と関西大学を取り上げて紹介した。

■ 主催　学園教育充実研究会（SD 部門）
■ 日程　平成 28 年 6 月 22 日（水）　Ⅳ時限目（14：00～16：00）
■ 会場　62 年館 2 階　ラーニング・コモンズⅡ
■ 講師　佐久間邦友 先生（大学家政学部人間生活学科 講師）
■ 参加者数　46 名（大学 14 名・短大 8 名・事務局 24 名）

■ 実施内容
(1)「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」（答申）の概要
(2)　取組の実践例①－東京工業大学「くさび型教育・ナンバリング」－
(3)　取組の実践例②－関西大学「アクティブ・ラーニング」－
(4)　各大学の動向

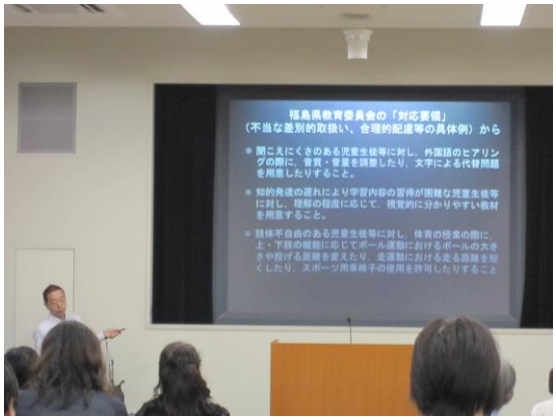
障がい学生支援研修会
「障害者差別解消法における大学での教職員対応について －その必要性と対応の基本理念－」

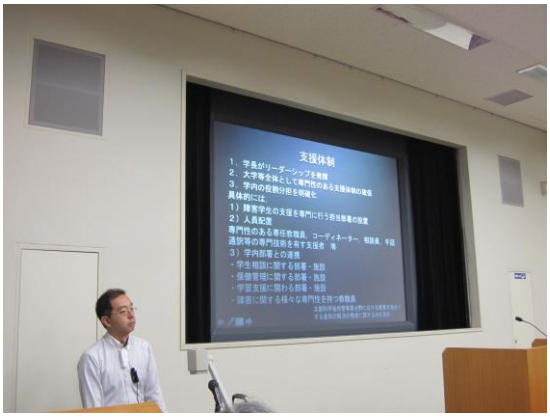
障害者差別解消法が今年 4 月より施行されました。それに伴い、私立大学では文部科学省が示す「文部科学省所管事業分野における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応指針」（いわゆる「対応指針」）に沿った対応が求められることになります。

では具体的に、何をどこまでしなければならないのでしょうか。障害者差別解消法や、内閣府から示された「基本方針」、文科省から示された「対応指針」を提示しながら、それらの背景となる考え方について詳しく解説していただきました。

■ 主催　障がい学生支援委員会、学生生活部　共催
■ 日程　平成 28 年 9 月 2 日(金)　午前の部　10：00～11：30　／　午後の部　13：00～14：30
■ 会場　創学館 2 階　521 講義室
■ 講師　金澤貴之 先生（群馬大学教育学部 教授）
■ 参加者数　69 名　午前 47 名（大学 12 名・短大 26 名・事務局 9 名）・午後 22 名（大学 4 名・短大 11 名・事務局 7 名）

■ 実施内容
(1) 障害者差別解消法をめぐる法制度上の理解
(2) 文部科学省所管の対応指針を読み解く（私立学校向け）
(3) 障害者差別解消法の前と後で変わること
(4) 障がい学生支援の体制構築　　その他資料





平成 28 年度ハラスメント防止研修会
「本学におけるハラスメント防止について　－特にパワハラ防止を中心として－」

平成 27 年 6 月に「学校法人郡山開成学園　ハラスメント防止に関する規定」が施行されたことに伴い、昨年度は「ハラスメント防止に関する規定」等の解説とハラスメント苦情相談窓口業務についての説明を中心とした研修会を開催しました。その後、12 月に、「ハラスメント防止に関する規定」等の一部改正、相談窓口の内規制定を行い、その内容をグループウェアで教職員の皆様に伝達しました。

今回の研修会では、昨年度施行の「ハラスメント防止に関する規程」「ハラスメント防止委員会規程」の一部改正の解説と確認、「ハラスメント相談室・相談員の内規」制定の要点説明を行い、続いて、あかるい職場環境を築くための「パワハラ防止」について、「パワハラ」とはどのようなことか、近辺に発生していないか、それを防ぐには、また、解決するにはどうすべきかについて、具体的に学びました。

■ 主催　ハラスメント防止委員会、学生生活部　共催
■ 日程　平成 28 年 9 月 21 日（水）　V時限目（16：10～17：05）
■ 会場　創学館 2 階　521 講義室
■ 講師　石堂常世 先生（ハラスメント防止委員会委員長、大学人間生活学科 教授）
■ 参加者数　57 名（大学 21 名・短大 20 名・事務局 16 名）

■ 実施内容
(1)「学校法人郡山開成学園ハラスメント防止に関する規定」ならびに「ハラスメント防止委員会規定」改正部分の解説
(2)「ハラスメント相談室・相談員の内規」の要点の説明
(3)　パワーハラスメント防止について

科研費説明会

平成 29 年度の科学研究費(以下、科研費)への応募にあたり、(1)本年度の申請書提出スケジュール、(2)科研費の変更点、(3)不正防止関連事項の伝達、(4)科研費獲得体験談、を伝えるため、科研費説明会を開催した。

まず日程上の問題の発生を防止するため、研究者から機関への申請書提出に対する本年度の締め切りを明示した。また研究種目の新設等の変更点を提示した。科研費等の競争的研究資金の導入に際しては、昨年度以上に不正防止への取り組みが求められている。このため不正防止委員会より、本年度の不正防止への対応や今後の検討事項についての説明を行った。また科研費の意義や獲得のための具体的な方策について、科研費獲得者にお話いただいた。

以上の通り、説明会では不正防止対応を行ったうえで科研費への積極的な応募することが期待されていることが示された。

■　主催　大学・短大教務部、不正防止委員会　共催
■　日程　平成 28 年 9 月 28 日(水)　V時限目（16：10～17：00）
■　会場　創学館 2 階　521 教室
■　講師　石原正道 先生（教務部副部長、大学人間生活学科 准教授）
　　坂上　茂 先生（不正防止委員会主任、短大食物栄養学科 教授）
　　坂野史明 先生（大学食物栄養学科 准教授）
■　参加者数　34 名（大学 17 名・短大 13 名・事務局 4 名）

■　**実施内容（抜粋）**

（1）科研費の概要
　・学内提出先と学内申請締め切り
　・昨年度との相違点
（2）不正防止に関する事項
（3）科研費獲得体験談
（4）その他

食物栄養学科セミナー
「オーストラリアの食文化　－先住民アボリジニの食文化とその変遷を中心として－」

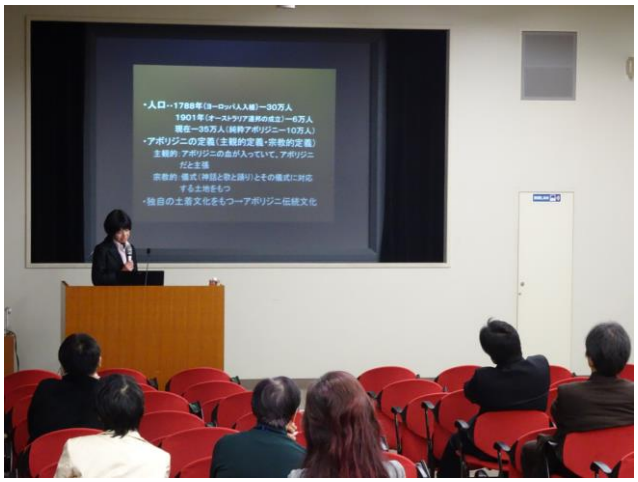
国・地域によって食文化は異なっている。まさに“所変われば食変わる”といったところだろうか。しかし、その実態は意外と知らないものである。

今回のセミナーは、滞在経験のあるオーストラリアの食文化について、白人を中心とする現代のオーストラリアの食文化と、先住民アボリジニの伝統的な食文化とその変遷を紹介した。
さらには食と関連が深い健康状態について、現代のアボリジニの食生活についてみていった。

本セミナーでは、異文化の紹介にとどまらず、「食」が健康に及ぼす影響や「食」生活を考えることの大切さを再認識していただくことを目的の一つとして開催した。

■　主催　大学 食物栄養学科
■　日程　平成 28 年 11 月 16 日(水)　Ⅴ時限目（16：10～17：40）
■　会場　創学館 2 階　521 教室
■　講師　安田純子 先生（大学食物栄養学科 教授）
■ 参加者数　18 名（大学 14 名・短大 2 名・その他 2 名）

■　実施内容（抜粋）
(1)　はじめに
　　“所変われば食変わる”
(2)　オーストラリアについて
(3)　現代オーストラリアの食文化
(4)　アボリジニについて
　　生活（かつての生活と現在の生活）
(5)　アボリジニの食文化
　　伝統的な食文化、都市型アボリジニの食生活、現代アボリジニの健康状態
(6)　おわりに（まとめ）



平成 28 年度 SD 部門研修会（夏の大会 午後の部）「事務局の業務と経費の見直し」について

平成 28 年 8 月 30 日に第 52 回学園教育充実研究会（大会）が開催されたが、台風 10 号が接近しており、同日の夕方には東北地方に上陸の恐れがある状況であったので、午前中のみの開催となり午後の会は中止された。8 月 30 日午後に実施予定であった標記の研修課題を学生が冬休みに入り職員が集まりやすい 12 月下旬に実施した。

職員が部署を超えてグループに分かれ、事務局業務の見直し、経費の見直しを行い、「ムダ」と感じる業務及び経費の洗い出しを行い、見直し案について討議をし、グループごとに提案をポスターにまとめて発表し、事務局全体で認識を共有した。

■ 主催　学園教育充実研究会（SD 部門）
■ 日程　平成 28 年 12 月 27 日（火）　9：30～12：00
■ 会場　83 年館 3 階　833 講義室
■ 参加者数　40 名（事務局職員のみ）

■ 実施内容

(1)　グループディスカッション

参加者を 1 グループ 6 名の 7 グループに分け、「ムダ」と感じる業務及び経費の洗い出し見直し項目の抽出と見直し案の検討を行う。

(2)　ポスター作成

業務・経費毎に「見直し項目」と「見直し案」を記載

(3)　ディスカッションの結果報告

7 グループから作成したポスターを用いながら報告を実施

平成 28 年度 第 1 回アドバイザー業務研修会：PHP ビデオアーカイブスの活用

ＰＨＰビデオアーカイブスプラスは社員研修･人材育成等の企業内教育に関する動画コンテンツを中心とした主に法人向けの有料会員制 Web サイトで、年間契約により 400 本の研修用のビデオが使い放題となっている。パソコン、スマートフォン・タブレットからのアクセスが同時接続 50 人まで利用可能である。本学園では平成 27 年 5 月より年間契約を結んでおり、本学園の教職員なら、個人での視聴、部・学科内研修、集合研修等に自由に使うことができる。

このビデオアーカイブスを有効に活用していただくことを目的として、研修会を開催した。

■　主催　学園教育充実研究会、学生生活部　共催

■　日程　平成 29 年 1 月 31 日（火）　Ｖ時限目（16：10～17：00）

■　会場　創学館 2 階　521 教室

■　講師　岡部聡子 先生（学園教育充実研究会委員、大学食物栄養学科 准教授）
　　田辺真弓 先生（学生生活部部長、短大家政科福祉情報専攻 教授）

■　参加者数　50 名（大学 18 名・短大 27 名・事務局 5 名）

■　実施内容

(1)　ＰＨＰビデオアーカイブスの利用について
　・ＰＨＰビデオアーカイブスとは　・視聴の仕方　・研修会等での使用について
　・ビデオ作品一例の紹介

(2)　ビデオを利用して「コーチング」を学ぶ
　・平成 26 年度、27 年度のコーチング研修会の内容と平成 28 年度のコーチング研修会のテーマについてのお知らせ
　・ＰＨＰビデオライブラリー「管理・監督者教育」の「コーチングスキル実践講座　傾聴・承認・質問」の 32 本から選択した 9 本を視聴

(3)　アンケートの実施
　・ＰＨＰビデオアーカイブスに関する意識調査

■　配付資料
　①資料１「ＰＨＰビデオアーカイブスの利用について」
　②資料２「配信されている作品の一覧」
　③資料３「ビデオを利用して『コーチング』を学ぶ」
　④資料４「コーチングスキル実践講座　傾聴・承認・質問」ビデオ内容一覧
　⑤資料５「平成 26 年度コーチング研修会レジメ要約版」

ＰＨＰビデオアーカイブスの利用について

ビデオを利用して「コーチング」を学ぶ

平成 28 年度 第 2 回アドバイザー業務研修会：実践コーチング　～「わかる」を「できた」に～

コーチングとは、コーチとして専門的教育を受けたコーチとクライアントと呼ばれる個人（またはチーム）が目標を設定し、コーチがクライアントとのコミュニケーションを通じて、質問や提案をすることによってクライアントの行動を促し、成果を達成するというパートナーシップである。

1 回目の平成 26 年度は基本的なコーチングスキルの中の「聴く」を中心に学んだ。2 回目の 27 年度は、「質問力」について取り上げ、相手のコミュニケーションスタイルを見分けて対話力をアップさせることを学んだ。3 回目となる今回は「傾聴」「承認」「質問」の重要性を確認した上で、コーチングスキルを磨くためのエクササイズを行った。

■ 主催　教養・キャリア教育委員会、学生生活部　共催
■ 日程　平成 29 年 2 月 7 日（火）　13：00～15：00
■ 会場　創学館 3 階　534 教室
■ 講師　木須八重子 先生（公益財団法人 せんだい男女共同参画財団　理事長）
■ 参加者数　20 名（大学 12 名、短大 8 名）

■ 実施内容
(1)　コーチングとは
　・他のアプローチとの違い　・基本的なコーチングフロー　・コーチングのポイント
(2)　コーチングスキルを磨く　「傾聴」「承認」「質問」
(3)　コーチングフローを使ったエクササイズ（二人一組で実施）
(4)　まとめと質疑応答
■ 関係資料
　①研修会レジメ
　②資料１「コーチングとは」
　③資料２「エクササイズ」子どもの塾選びに関する夫と妻の会話
　④資料３「エクササイズ」クローズドクエをオープンクエスチョンにする
　⑤資料４「コーチングフローを使ったエクササイズ」

講義風景

コーチングフローを使ったエクササイズ風景

システム「めばえ」教職員向け研修会

平成 29 年度より新大学システム「システムめばえ（以下本システム）」が導入される。本システムは、学生情報を一元管理し、現在 WLR で対応している連絡・レポート提出等の授業支援機能が大幅に強化される特徴を持つ。本研修会では、本システムを学生指導に活かすための機能概要を学び、導入前の理解を深めることを目的とした。

■ 主催　IT 管理・運営委員会

■ 日程　① 1 回目　平成 29 年 2 月 15 日(水)　10：00～12：00

　　② 2 回目　平成 29 年 2 月 16 日(木)　10：00～12：00　※1 回目と同じ内容で実施

■ 会場　芸術館 1 階　大教室

■ 講師　森　俊夫 氏　（株式会社タイムインターメディア）

　　山口　猛 先生（新システムプロジェクトチーム、家政科福祉情報専攻 講師）

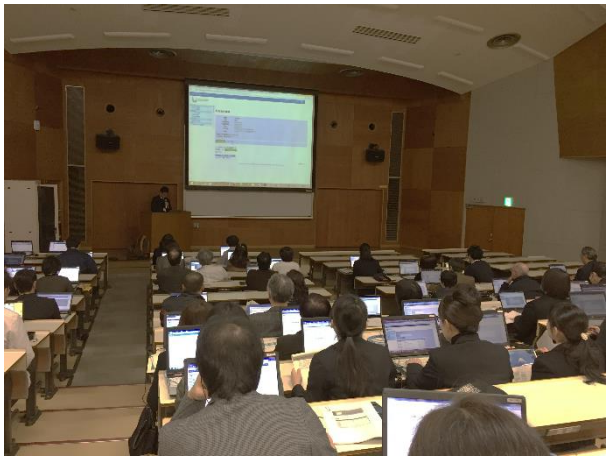
■ 参加者数　109 名　①67 名（大学 22 名・短大 29 名・事務局 16 名）・②42 名（大学 9 名・短大 19 名・事務局 14 名）

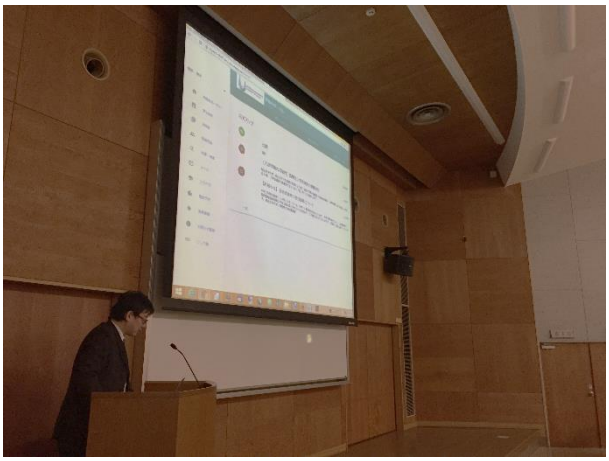
■ 実施内容

(1)　システム概要の説明

(2)　教職員共通で使用する機能である「学生連絡」「学生ポートフォリオ」の説明

(3)　教員が使用する機能である「シラバス」「出欠」「成績」「授業支援」の説明





食物栄養学科セミナー：「エゴマの成分と利用について」

エゴマはシソ科の中でも最もシソに近い植物で、日本では縄文時代から食べられてきたといわれ、油紙、雨傘、提灯、合羽などの塗布油としても用いられてきた。日本への渡来はきわめて古く、日本最古の作物の一つとして農耕の起源と結びついている。近年リノール酸の摂りすぎによる弊害を是正する油として、α―リノレンを多く含む油が注目を浴びてきており、その一つとしてエゴマが注目されるようになってきた。しかし、エゴマの成分を系統的に調べた報告は少ないので、私共は福島産エゴマ種子を中心に脂肪酸組成、一般成分、ミネラル等の分析を行いエゴマ種子の成分の特徴を明らかにしてきた。

エゴマは、油や種子だけでなく、普段利用されず、家畜のえさや廃棄されてしまっているエゴマ油の搾りかすや、葉などにも有効な成分が含まれているため、それらの部分の有効利用法についても検討を行ってきた。

また、エゴマの種子、葉、油の利用実態や加工食材としての利用などについても調査し、新たな加工品や料理なども試みているので、これらについても紹介する。

さらに、現在福島県内の様々な地域で、地域振興を兼ねてエゴマの栽培推進が行なわれているので、その事例をいくつか紹介したい。

■ 主催　大学 食物栄養学科
■ 日程　平成 29 年 2 月 22 日(水)　V時限目（16：10～17：40）
■ 会場　家政学館 2 階　臨床栄養学実習室
■ 講師　郡司尚子 先生（大学食物栄養学科 講師）
■ 参加者数　28 名（大学 16 名・短大 7 名・事務局 1 名・その他 4 名）

■ 実施内容
(1)　エゴマの文化
(2)　エゴマの栽培
(3)　エゴマの機能性
(4)　エゴマに関する研究内容報告
(5)　エゴマを用いた加工品の紹介
(6)　エゴマを用いた加工品の考案
(7)　現在行っている研究等

平成 28 年度ＳＤ部門後期研修会：「乳幼児施策の現状―認定こども園を中心に」

最近よく耳にする「認定こども園」について、本学 講師 古川 督 先生を講師としてお招きし、幼稚園、保育所、認定こども園の違い等について基本的な解説をいただいた。

■ 主催　学園教育充実研究会（SD 部門）
■ 日程　平成 29 年 2 月 28 日(火)　14：00 ～ 15：15
■ 会場　創学館 2 階　521 講義室
■ 講師　古川　督 先生（短大幼児教育学科 講師）
■ 参加者数　53 名（大学 7 名・短大 16 名・事務局 30 名）

■ 講演内容　（抜粋）
(1)　子ども家庭福祉施策の体系
(2)　子ども家庭福祉施策の内容
(3)　認定こども園について
(4)　郡山市の乳幼児施策

5. 事務局職員 外部研修参加記録

事務局職員においては、学内研修だけでなく、外部団体主催の研修に参加することが SD 活動においても重要である。本年度の各部署の外部団体主催の研修会への参加状況をまとめた。

事務局長

	件　　名	主 催 者	場 所	内　　容
1	平成 28 年度私立大学等経常費補助金説明会（初任者向け）	日本私立学校振興・共済事業団	東北福祉大学仙台駅東口キャンパス（仙台市）	補助金制度に関する説明会。補助金の種類・目的・内容・計算方法等、資料を基に詳細な説明を受講
2	平成 28 年度科学研究費助成事業説明会（実務担当者向け）	（独法）日本学術振興会	東北大学南青葉山東キャンパス（仙台市）	科研費の内容、同補助金の前年度からの変更内容等に関する研修会
3	平成 29 年度大学入学者選抜入試センター試験担当者連絡協議会（第 1 回目）	（独法）大学入試センター	ホテル福島グリーンパレス（福島市）	平成 29 年度大学入試センター試験の変更点、要領等の説明及び高大接続改革に関する情報提供

総務部

	件　　名	主 催 者	場 所	内　　容
1	大学経営における競争戦略から見た IR 実践セミナー	㈱インテージテクノスフィア	インテージ秋葉原ビル(東京都千代田区)	大学 IR の視点から見た中期経営計画の策定及び PDCA 活動支援実例の報告
2	平成 28 年度私立大学等経常費補助金説明会（補助金事務責任者向け）	日本私立学校振興・共済事業団	東北福祉大学仙台駅東口キャンパス(仙台市)	私立大学等経常費補助金の内容、同補助金の前年度からの変更内容等に関する研修会
3	研究活動における不正行為への対応等に関する説明会	文部科学省科学技術・学術政策局	東京大学安田講堂（東京都文京区）	研究活動における不正行為に対応する各大学の体制の整備状況の報告と、文科省が求める今後の方向性の説明
4	今すぐできる IR 分析 教学 IR 分析研修会［前編］	㈱インテージテクノスフィア	インテージ秋葉原ビル(東京都千代田区)	教学系データから見えてくる大学の課題の解説と、ソフトを使っての分析手法の実体験
5	平成 28 年度　科学研究費助成事業説明会（実務担当者向け）	（独法）日本学術振興会	東北大学南青葉山東キャンパス（仙台市）	科研費の内容、同補助金の前年度からの変更内容等に関する研修会

6	平成 28 年度事務研修会	日本私立大学協会東北支部	山形国際ホテル（山形市）	各大学から提案された課題に対しての状況報告と、意見交換及び私立大学を取り巻く情勢に関する協会本部からの報告
7	交付率の改定及び第 10 次掛金率に関する説明会	（公財）私立大学退職金財団	アルカディア市ヶ谷(東京都千代田区)	退職資金申請システム（t-マネージャー）の利用手順書を使い、交付率の改定及び第 10 次掛け金率に関する説明

経理部

	件　　名	主　催　者	場　所	内　　容
1	平成 28 年度私立大学等経常費補助金説明会(補助金事務責任者向け)	日本私立学校振興・共済事業団	東北福祉大学仙台駅東口キャンパス(仙台市)	私立大学等経常費補助金の内容、同補助金の前年度からの変更内容等に関する研修会
2	平成 28 年度　科学研究費助成事業説明会（実務担当者向け）	（独法）日本学術振興会	東北大学南青葉山東キャンパス（仙台市）	科研費の内容、同補助金の前年度からの変更内容等に関する研修会
3	平成 28 年度私立短大経理事務等研修会	（一財）私学研修福祉会	ANA クラウンプラザホテル神戸（神戸市）	私立短大が抱える運営課題や諸情勢に関する講演と、学校会計についての実務的な研修会（3 日間）

管財部

	件　　名	主　催　者	場　所	内　　容
1	平成 28 年度私立大学等経常費補助金説明会(補助金事務責任者向け)	日本私立学校振興・共済事業団	東北福祉大学仙台駅東口キャンパス(仙台市)	私立大学等経常費補助金の内容、同補助金の前年度からの変更内容等に関する研修会
2	官民連携と地域連携で実現する地域創生	日本経済新聞社	日経ホール（東京都千代田区）	地方創生に関する具体的な事例を学ぶ事により、普段からのデータ収集・分析によるマーケティングの重要性を認識する研修会
3	大学・高校 実践ソリューションセミナー	㈱内田洋行	内田洋行本社（東京都中央区）	(1) 学内建物の運用管理コストの低減 (2) 大学の学部・研究科等の組織改編等に係る手続きと審査の観点・留意点 (3) アクティブ・ラーニング

				は、本当に効果があがっているのか（再考？）（4）データ・エビデンスから学生の成長支援を考える！の４つのセミナーに参加
4	自衛消防業務（新規）講習	仙台市消防局予防部予防課	フォレスト仙台ビル(仙台市)	自衛消防組織のリーダーに必要な基本的知識及び消防技術の習得

入学事務・広報部

	件　　名	主　催　者	場　所	内　　容
1	進研アド「BETWEEN セミナー」	進研アド㈱東北支社	TKP ガーデンシティ仙台勾当台（仙台市）	「選ばれる大学の道筋」を３つの論点から考察する研修会

教務部

	件　　名	主　催　者	場　所	内　　容
1	第 7 回教育 IT ソリューション EXPO 展示会	リードエグジビジョンジャパン㈱	東京ビッグサイト（東京都江東区）	新システム導入に合わせ、保護者との連携・連絡方法を一元化し、保護者が子の出席率、成績を確認できるシステム導入の参考のために参加
2	平成 28 年度大学入学者選抜・教務関係事項連絡協議会	文部科学省高等教育局大学振興課	メルパルク東京（東京都港区）	①入学選抜試験にかかる諸問題について②「平成 29 年度大学入学者選抜実施要項」③「平成 29 年度大学入学者選抜大学入試センター試験実施要項」の 3 点に関する説明
3	平成 28 年度私立大学等経常費補助金説明会	日本私立学校振興・共済事業団	東北福祉大学仙台駅東口キャンパス(仙台市)	私立大学等経常費補助金の内容、同補助金の前年度からの変更内容等に関する研修会
4	平成 29 年度大学入学者選抜入試センター試験福島県連絡協議会	大学入試センター試験福島県連絡会議 世話大学：福島大学	福島大学（福島市）	現時点でのデータを基に県内試験場の配分案の提示と協議
5	平成 29 年度大学入学者選抜入試センター試験担当者連絡協議会（第１回目）	（独法）大学入試センター	ホテル福島グリーンパレス（福島市）	平成 29 年度大学入試センター試験の変更点、要領等の説明及び高大接続改革に関する情報提供

6	平成 29 年度科学研究費助成事業公募要領等説明会	文部科学省研究振興局学術研究助成課	岩手大学（盛岡市）	①科研費申請に関して大きな変更点はなし②研究費の不正使用及び研究活動の不正行為の防止③次年度以降は会場形式の説明会は行わず、WEB 上で確認
7	平成 28 年度全国障害学生支援セミナー 「体制整備支援セミナー」	（独法）日本学生支援機構	東京大学安田講堂（東京都文京区）	障害者差別解消法施行後の大学等での合理的配慮の提供に関する対応等について、理解を深めるための研修会
8	平成 28 年度東北地区学生指導研究会	東北地区学生指導研究会	弘前大学総合教育棟（弘前市）	障害者学生を大学で受け入れている各大学の現状や取組みについての講演会とグループ討議（3 日間）
9	平成 28 年度私立短大教務担当者研修会	（一財）私学研修福祉会、日本私立短期大学協会	オークラアクトシティホテル浜松（浜松市）	「教務に関わる制度改正を踏まえて」を研修テーマとして行われた担当者の研修会（3 日間）
10	大学・高校 実践ソリューションセミナー	㈱内田洋行	㈱内田洋行本社（東京都中央区）	(1) 忍び寄るサイバー攻撃から身を守れ！(2) 大学の学部・研究科等の組織改編等に係る手続きと審査の観点・留意点 (3) アクティブ・ラーニングは、本当に効果があがって いるのか（再考？）(4) 世界で通用する理工系人材をどう育成するのか の４つのセミナーに参加
11	平成 29 年度大学入学者選抜入試センター試験担当者連絡協議会（第 2 回目）	（独法）大学入試センター	北海道大学学術交流会館（札幌市）	試験直前及び当日の留意点、試験問題の輸送等に関する留意点、成績請求・提供に関する留意点についての説明会
12	平成 28 年度教職課程認定申請に関する事務担当者説明会	文部科学省	昭和女子大学人見記念講堂（東京都世田谷区）	本年度中に改正が予定されている教育職員免許法改正に伴う変更点・留意事項に関する説明会
13	大学 IR FORUM 2016	㈱インテージテクノスフィア	インテージ秋葉原ビル（東京都千代田区）	大学ＩＲに関わる学生成長モデル、学生生活実態調査、就職支援システムを主催社のソフトで実体験した
14	大学設置に関する事務担当者説明会	文部科学省	メルパルク東京イベントホール（東京都港区）	申請書作成についての留意点に関する説明会
15	平成 28 年度東北厚生局管内養成施設等説明会	東北厚生局	東北厚生局共用大会議室（仙台市）	①東北厚生局管内養成施設事務担当者マニュアルの説明②指導調査に基づく運営上の注意事項の説明

学生生活部

	件　　名	主　催　者	場　所	内　　容
1	保育士修学資金等事務説明会	福島県社会福祉協議会	福島県総合社会福祉センター（福島市）	保育士修学資金貸付に関する説明会
2	平成 28 年度学生支援相談業務に関する基礎研修講座	内閣府認証　特定非営利法人学生文化創造	国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）	留学生に対する安全配慮等、新たな業務を含む学生支援業務にあたる際の幅広い考え方についての講座
3	平成 28 年度学生教育研究災害障害保険説明会	（公財）日本国際教育支援協会	仙台東京海上日動ビル（仙台市）	①学生教育研究災害障害保険等の概要及び現況（加入状況、事故状況、事故事例の報告）②海外留学用の保険制度③インバウンド付帯学生生活総合保険の新設　についての説明会
4	平成 28 年度日本学生支援機構奨学金適格認定・返還指導等研修会	（独法）日本学生支援機構	パレスへいあん（仙台市）	異動・補導業務、適格認定、返還指導についての研修会
5	平成 28 年度・秋季 学生支援相談業務に関する研究会	内閣府認証　特定非営利活動法人学生文化創造	東京大学山上会館（東京都文京区）	「高大接続改革について」（講義）（1 日目）及び「インターンシップの現状と課題」（講義）と「課題を有する学生に対する教職協働による学生支援の試み」（グループワーク）（2 日目）から構成された研修会
6	教職協働セミナー・育てるための学生理解	アカデミアコンソーシアム福島	福島学院大学福島駅前キャンパス（福島市）	発達障害の一次特性とその対応に関する講演会およびグループワーク
7	平成 28 年度日本学生支援機構奨学業務連絡協議会	（独法）日本学生支援機構	パレスへいあん（仙台市）	奨学生の採用・適格認定・返還指導業務等の来年度からの変更点や留意点についての説明会
8	中小企業向け個人情報保護法説明会	アカデミアコンソーシアム福島	コラッセふくしま（福島市）	個人情報保護委員会委員として参加。個人情報保護法に関する最新の状況を含めて理解を深めるための説明会

就職部

	件　　名	主　催　者	場　所	内　　容
1	平成 28 年度第 1 回企業と学校による人材情報交換会	栃木県産業労働観光部労働政策課	ホテル東日本宇都宮（宇都宮市）	新卒者の採用を予定している栃木県内企業の採用担当者と近県・首都圏の就職担当職員の情報交換会
2	平成 28 年度東北地区私立大学就職問題協議会	東北地区私立大学就職問題協議会	ホテル紫苑（盛岡市）	今年度は盛岡大学が当番校。東北の 28 私大・就職情報誌 9 社が参加し講演会・総会が行われた。
3	平成 28 年度全国キャリア・就職ガイダンス交換会	文科省　就職問題懇談会（独法）日本学生支援機構	東京ビッグサイト（東京都江東区）	①行政側からの説明②講演③キャリア教育・就職支援のセッション④障害のある学生のキャリア教育・就職支援についてのセッションから構成されたガイダンス
4	平成 28 年度東北地区私立短期大学就職指導研究会	東北地区私立短期大学就職指導研究会	ホテル紫苑（盛岡市）	東北 12 の短大の担当者が参加。2 日間、総会、講演会、グループ討議（一般企業系と専門職系に分けた分科会による討議と発表）を実施
5	2017 年卒採用戦線市場動向報告会及び名刺交換会	㈱マイナビ	TKP ガーデンシティアエル（仙台市）	選考開始変更に伴う広報機会の短期化への対策を再検討する場として開催
6	平成 28 年度東北地区学生指導研究会	東北地区学生指導研究会	弘前大学総合教育棟（弘前市）	障害者学生を大学で受け入れている各大学の現状や取組みについての講演会とグループ討議（3 日間）
7	東北地区私立大学合同就職セミナー	東北地区私立大学就職問題協議会	仙台サンプラザホール（仙台市）	東北地区の各私大が協力し、企業に参加依頼して開催するセミナー
8	平成 28 年度就職担当者研修会	（一財）私学研修福祉会、日本私立短期大学協会	ホテル金沢（金沢市）	「やる気の醸造・基礎学力の向上・コミュニケーション能力向上」をテーマに、加盟短大 122 校が参加して行われた研修会（3 日間）
9	就活ムービケーション体験セミナー	㈱マイナビ	㈱マイナビ宮城支社（仙台市）	マイナビが提唱する映像とストーリーを用いた、限りなくリアルに近い状況を再現したシミュレーション型ガイダンスの体験セミナー
10	労働政策フォーラム in 宇都宮	労働政策研究所・研修機構（JILPT）	ホテルニューイタヤ（栃木県宇都宮市）	「多様化する仕事と働き方に対応したキャリア教育」に基づき、少子高齢化で若者に求められる人物像も変わりつつある中で、労働問題への関心を高める必要があり、これからの

				時代に求められるキャリア教育のあり方について議論
11	企業と大学のためのインターンシップ研修会	東北インターンシップ推進コミュニティ	東北学院大学土樋キャンパス（仙台市）	インターンシップの実施に於いて必要とされる知識や現状を学ぶことで、リスクマネジメントや効率的なインターンシッププログラムを考える場として開催された

保健室

	件　　名	主　催　者	場　所	内　　容
1	第 54 回全国大学保健管理研究集会	（公社）全国大学保健管理協会	大阪国際会議場（大阪府）	「グローバルな健康価値創造」を共通テーマとして開催された研究集会

図書館

	件　　名	主　催　者	場　所	内　　容
1	2016 年度私立大学図書館協会東地区部会 次期役員選考委員会及び意見交換会	私立大学図書館協会東地区部会	学習院大学学習院創立百周年記念館（東京都豊島区）	役員選考で本学（大学）が 2017-18 年の「地区ブロック選出理事校」に選出された。委員会終了後は協会の現状について活発な議論が行われた。
2	2017 年度私立大学図書館協会東地区部会　総会・研究講演会	私立大学図書館協会東地区部会	東京理科大学葛飾キャンパス（東京都葛飾区）	総会並びに研究講演会（「ツタヤ図書館は大学図書館で実現可能か!?」）及びパネルディスカッション（今あらためて業務委託を徹底解剖！～委託の現状、図書館のホンネ～」）
3	第 32 回福島県内大学図書館連絡協議会総会	福島県内大学図書館連絡協議会	奥羽大学	協議事項の承認並びに奥羽大学図書館の見学
4	オープンアクセスリポジトリ推進協会設立総会	機関リポジトリ新協議会（仮称）設立準備会	学術総合センター中会議場（東京都千代田区）	オープンアクセスリポジトリ推進協会設立に向けた会議
5	第 71 回東北地区大学図書館連絡協議会総会	東北地区大学図書館連絡協議会	福島大学共生システム理工学類後援募金記念棟（福島市）	協議事項の承認並びに講演会（3・4 年生に対する学修支援を中心に据えた図書館外設置型ラーニング・コモンズの構築過程と課題」）

6	第 18 回図書館総合展フォーラム「残された紙の残された問題を解決する～館内コピー・ILL・デジタル変換～」	図書館総合展運営委員会	パシフィコ横浜フォーラム第３会場(横浜市)	大学図書館に欠く事の出来ないサービスである文献複写、図書館相互貸借（ILL）に関するフォーラム
7	平成 28 年度大学図書館シンポジウム	国公私立大学図書館協力委員会 日本図書館協会大学図書館部会	パシフィコ横浜アネックスホール（横浜市）	「１０年後の大学図書館を考える」というタイトルで、大学図書館をめぐる話題の柱の一つである「オープンアクセス」及び「機関リポジトリ」を取り上げたシンポジウム
8	全国大学ビブリオバトル京都決戦 2016　福島地区予選	桜の聖母短期大学	桜の聖母短期大学(福島市)	ビブリオバトルのデモンストレーション及び福島地区予選の観戦
9	私立大学図書館協会東地区部会　2016 年度第 2 回役員会	私立大学図書館協会東地区部会	学習院大学中央教育研究棟 12 階国際会議場　（東京都豊島区）	報告事項・協議事項・懇談事項の承認
10	福島県内大学図書館連絡協議会第 23 回実務者研修会	福島県内大学図書館連絡協議会	日本大学工学部	①リフレクシア（学習障害）について(野口専修大学講師) ②「読書通帳をめぐる諸問題」（講師 和知）の２本の講演と応答質疑

高校事務室

	件　　名	主　催　者	場　所	内　　容
1	平成28年度第43回福島県私学教育研修会	福島県私立中学高等学校協議会	郡山ビューホテルアネックス(郡山市)	「未来を拓く私学教育を目指して」魅力ある人材を育成する私学教育(研究目標)
2	平成 28 年度県中地区私立高等学校保護者懇話会	尚志高等学校（当番校）	郡山ビューホテルアネックス(郡山市)	福島県私学振興大会への取組み、保護者会の勉強会
3	福島県私立中学高等学校保護者会第 27 回研修会	福島県私立中学高等学校協会	東山グランドホテル（会津若松市）	講演「思春期の子どもたちを応援する大人の役割」 研修「保護者会活動状況と課題」
4	平成28～29年度 第3回定例協議会並びに冬季研修会	福島県私学振興協議会	母畑温泉八幡屋(石川郡石川町)	「改正労働契約法について」福島県労働局雇用環境・均等室　針生達矢監理官
5	平成 28 年度 福島県私立中学高等学校事務部会	福島県私立中学高等学校事務部会長	ホテルハマツ(郡山市)	総会及び財務状況報告書作成

幼稚園事務室

該当なし

学園教育充実研究会（SD 部門）

該当なし

家庭寮

該当なし

平成 28 年度 学園教育充実研究会（大学・短大部門）

部　門	名　　前	所　　属
FD 部門	磯部　哲夫（委員長・FD 部門 主任）	短期大学部　　音楽科
	岡部　聡子（FD 部門 副主任）	大学家政学部　食物栄養学科
	長田　城治	大学家政学部　人間生活学科
	郡司　尚子	大学家政学部　食物栄養学科
	澤渡　優喜	短期大学部　　家政科食物栄養専攻
	柴田　卓	短期大学部　　幼児教育学科
	松田　理香	短期大学部　　生活芸術科
SD 部門	降矢　正一（SD 部門 主任）	事務局長
	横田　英隆（SD 部門 副主任）	経理部
	加瀬　洋	総務部
	高橋　一	総務部
	安齋　文明	管財部
	鈴木　美由紀	学生生活部
	岸本　圭生	就職部
	草野　優芽	入学事務広報部
	村田　菜織	高校事務室
事務担当	安藤　岐恵	教務部
	池田　理咲子	教務部